

CHAPTER 4

資料・分析編

各地域の役割と位置付け

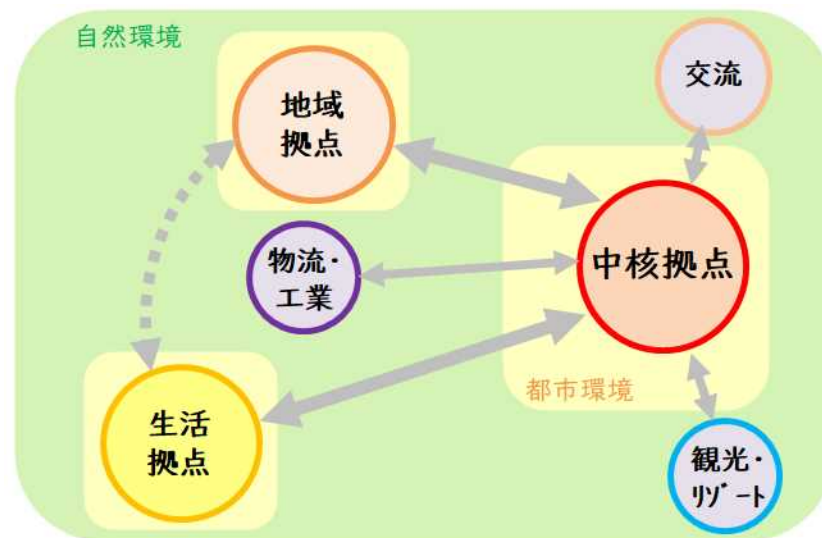
4.1 4.1.1 将来の都市構造の基本的な考え方(再掲)

本市の目指す将来の都市構造 「多拠点ネットワーク型コンパクトシティ」

将来の都市構造は、都市機能が集積する「都市拠点(点)」の配置、交通ネットワーク等の「都市軸(線)」、土地利用の「ゾーン(面)」の3つの要素からなる本市の基本的な骨格を空間的、概念的に示すものです。

なお、本市では、居住機能や商業・業務機能等、多様な都市機能がコンパクトに集約した「中核拠点」及び「地域拠点」を中心に、「物流・工業」・「観光・リゾート」・「交流」等、特徴的な機能を有する各種都市拠点が、道路及び公共交通による都市軸によって連携する『多拠点ネットワーク型コンパクトシティ』の構築を目指します。

この実現により、中心市街地の活性化を含めたまちなかの求心力や各地域の拠点性のさらなる高質化・多様化を図るとともに、大規模自然災害への備えをより一層充実させながら、市街地周辺の自然的環境の維持・保全・有効活用や、豊かな歴史、伝統、文化等の伝承と併せて、持続可能なまちづくりの構築を目指します。



4.1.2 都市の骨格形成の方針

都市の骨格は次の3つの要素で形成します。

都市拠点

都市活動や日常生活の中心となる場(点的要素)

都市軸

都市の骨格を成す道路や公共交通による動線(線的要素)

ゾーン

概ねの利用区分毎の土地のまとまり(面的要素)

(1) 都市拠点

都市拠点

都市活動や日常生活の中心となる場
(点的要素)

都市拠点は、特定の機能特化や複合など、特徴的な都市機能等を有し、その機能をいかした拠点となる地域を示すものです。

都市拠点名	役割
中核拠点	市の行政、商業、経済等の中心的役割を担う都市機能の集約を図り、市の発展を牽引する拠点の役割
地域拠点	各総合支所管内の中心として、公共公益・文化機能等の維持・集積を図り、周辺の居住者の利便性向上による人口密度維持の拠点及び地域防災の拠点の役割
生活拠点	生活サービス機能の維持・集約を図り、周辺の居住者の利便性の向上による人口密度維持の拠点の役割
集落拠点	市街化調整区域内の拠点となる集落としての役割
学術・医療拠点	学術・研究・医療の振興や民間との技術開発、あるいは各種市民活動等との連携、又は高度医療を提供する拠点としての役割
文化・歴史拠点	文化、芸術、芸能等の活動・鑑賞等の拠点、又は地域固有の歴史的遺産等に関する情報提供等の拠点、更にはこれらの機能を介した交流の場を提供する役割
観光・リゾート拠点	本市固有の観光資源をいかした、世界に開かれた観光・リゾートの拠点としての役割
スポーツ・レクリエーション拠点	各種スポーツ大会の開催やプロスポーツキャンプを通じたスポーツ振興や集客・交流機能、又は歴史・文化・自然等をいかしたレジャー機能等により、県内外から訪れる多様な人々に対し、スポーツや娯楽、憩い、交流等の場を提供する役割(大規模公園については、大規模自然災害等の非常時に受援基地等としての役割も担う)
物流・工業拠点	広域的な交通結節機能等をいかし、本市の経済的発展や雇用の創出等を牽引する物流・工業の拠点としての役割
交流拠点	既存の複合型商業機能を核として、他の関連する都市拠点並びに市内外との交流を促進する役割
防災拠点	大規模自然災害に備え、県下全体の防災に関する指揮・命令、情報の収集・発信、避難等、防災上の中枢を担う役割
防災支援拠点	広域的な交通結節機能等をいかし、大規模自然災害に備え、県下全体の速やかな救援・救護、復旧・復興等を支える役割

4.1

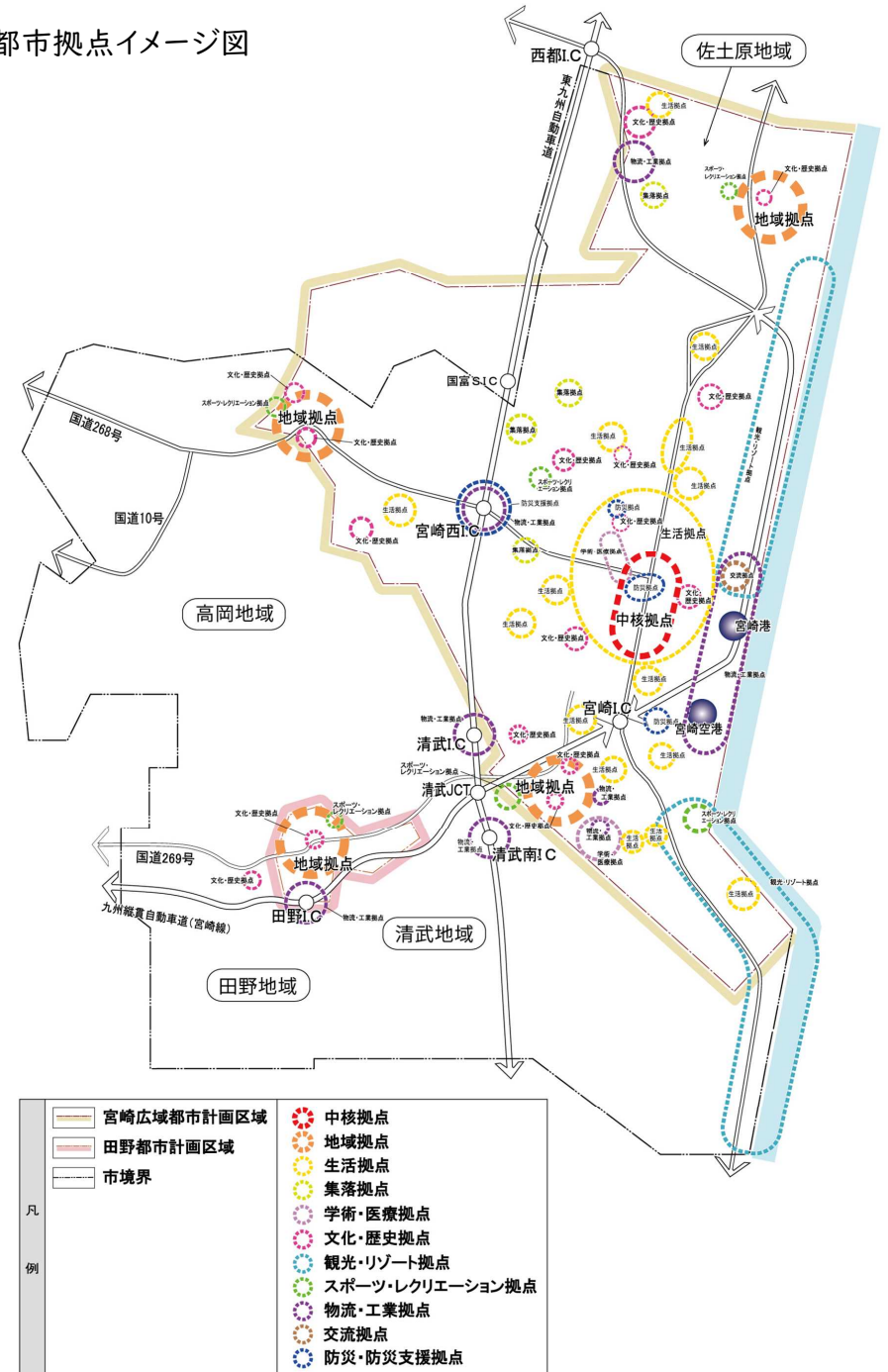
将来の都市構造

各都市拠点の概ねの配置とイメージ図を示します。

都市拠点名	概ねの配置
中核拠点	◆ 中枢となる商業・業務機能が集積された市中心部
地域拠点	◆ 各総合支所周辺
生活拠点	◆ 中核拠点周辺の市街地 ◆ その他主要な住宅地周辺の市街地
集落拠点	◆ 旧役場所在地※周辺
学術・医療拠点	◆ 本市の都市機能上重要な大学・医療機関を有する地域
文化・歴史拠点	◆ 主要な文化・歴史施設等を有する地域
観光・リゾート拠点	◆ 主要な観光・リゾート地域
スポーツ・レクリエーション拠点	◆ 主要なスポーツ・レクリエーション施設を有する地域
物流・工業拠点	◆ 交通結節点周辺 ◆ 高速道路IC周辺 ◆ 工場・企業集積地周辺
交流拠点	◆ 複合型商業施設周辺
防災拠点	◆ 中心市街地周辺 ◆ 拠点的な消防機能を有する地域
防災支援拠点	◆ 高速道路IC周辺

※本書における「旧役場所在地周辺」とは、昭和以前に合併した現在市街化調整区域となっている、瓜生野・倉岡、生目、那珂地区の各中心部を指します。

■ 都市拠点イメージ図



4.1

将来の都市構造

(2) 都市軸

都市軸

都市の骨格を成す道路や公共交通による動線
(線的要素)

都市軸は、都市の骨格形成と都市拠点間等を効果的・効率的に結ぶ基軸ネットワークを構築するものとして、主に道路系交通網をベースに、以下のように4つの軸と2つの回廊で構成するものです。

都市軸名		役割
軸	都市形成軸	各地域の中心部や主要な都市拠点等を結ぶ都市の骨格となる軸
	広域都市連携軸	広域的に主要都市間を結ぶ軸
	連携強化軸	都市形成軸及び広域都市連携軸を補完し、西部地区と東部地区との連携・交流や産業の振興等を促進する環状軸
	水と緑の軸	本市らしい景観の形成や市街地における快適性の確保、自然的環境の保全等、市民や来街者に対し、潤いや安らぎ等の環境を提供する水と緑(花)で構成される軸
回廊	海の回廊	都市の『縁側』という概念であり、その内側は都市機能の集約を図る都市的空間、その外側は保全的空間として、土地の利用と保全の空間構成を明確化するものです。なお、都市的空間内の農地・森林等は、社会経済情勢等を踏まえながら、本都市計画マスタープランに即した保全と利用を図り、『多拠点ネットワーク型コンパクトシティ』の実現に向けた空間構成のバランスを保つ役割を果たします。
	山の回廊	

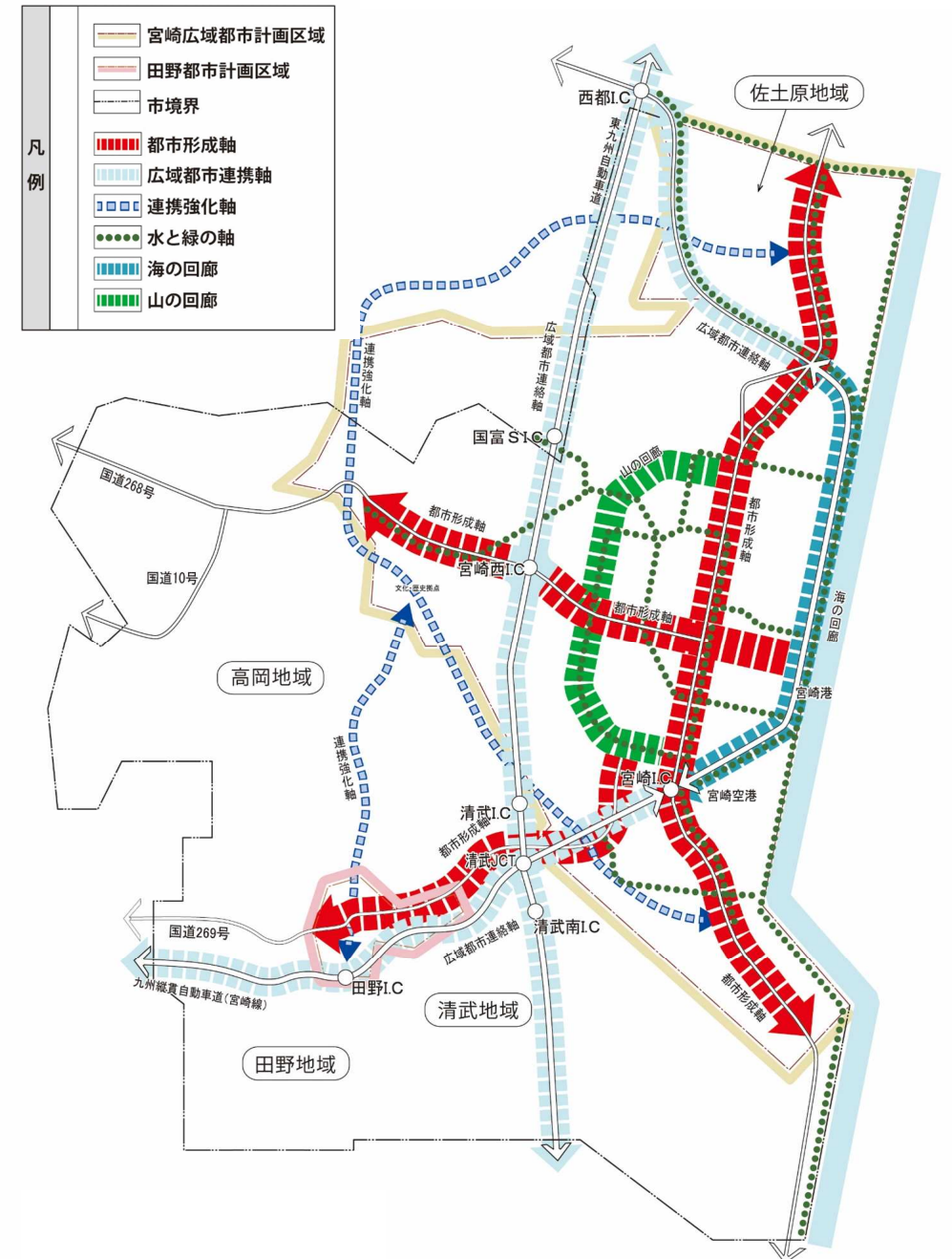
4.1

将来の都市構造

各都市軸の概ねの配置とイメージ図を示します。

都市軸名		概ねの配置
軸	都市形成軸	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 南北基幹軸 ⇒ 国道10号(住吉バイパス)、国道220号、JR日豊本線、JR日南線 ◆ 東西基幹軸 ⇒ 国道10号、宮崎駅東通線 ◆ 南西基幹軸 ⇒ 国道269号、JR日豊本線
	広域都市連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 九州縦貫自動車道宮崎線 ◆ 東九州自動車道 ◆ 地域高規格道路「宮崎東環状道路」 (一ツ葉有料道路、国道219号春田バイパス・広瀬バイパス)
	連携強化軸	◆ 県道高岡郡司分線等、複数の県道を主体に一部市道を含めた路線
	水と緑の軸	◆ 主要な道路・河川、海岸線、公園等
回廊	海の回廊	◆ 海側の環状道路軸 ⇒ 一ツ葉有料道路が主体
	山の回廊	◆ 山側の環状道路軸 ⇒ 宮崎西部環状線が主体

■ 都市軸イメージ図



4.1

(3)ゾーン

ゾーン

概ねの利用区分毎の土地のまとまり
(面的要素)

ゾーンは、面的な土地利用の基本的な配置方針を示すもので、都市拠点と都市軸による都市の骨組みに肉付けを行い、それぞれの地域の特性や環境等に応じたゾーンにより空間構成の明確化を図るものです。

土地利用区分		ゾーン名	ゾーン特性
都市的土地利用地区	住居系 土地利用	都市型住宅ゾーン	都市型居住機能 ^{※1} を中心としたエリア
		近郊型住宅ゾーン	近郊型居住機能 ^{※2} を中心としたエリア
		郊外型住宅ゾーン	郊外型居住機能 ^{※3} を中心としたエリア
	商業・業務系 土地利用	高次商業・業務ゾーン	高次商業・業務機能 ^{※4} を中心としたエリア
		商業・業務ゾーン	地域商業・業務機能 ^{※5} を中心としたエリア
		複合サービスゾーン	幹線道路沿道に形成された商業・業務機能と居住機能が混在する複合的なサービスエリア
物流・工業系 土地利用	物流・工業ゾーン	広域物流・工業機能 ^{※6} 又は先導的物流・工業機能 ^{※7} を有するエリア	
学術・医療系 土地利用	学術・医療ゾーン	高度な学術・医療機能を有するエリア	
自然的土地利用地区	自然系 土地利用	保全ゾーン	自然的環境を保全するエリア
		公園緑地ゾーン	公園・緑地エリア
		保全系緑地ゾーン	森林を主体としたエリア
		生産系緑地ゾーン	農地を主体としたエリア
		緑の森活用ゾーン	自然環境を活用した交流等、各種地域振興を支えるエリア

(特性)

※1 商業・業務をはじめとする多様な施設と、低層の戸建住宅から高層の集合住宅までが共存し、中・高密度の土地利用が展開される。

※2 部分的に商業・業務機能等も有するが、低層の戸建住宅を中心に中層までの集合住宅が共存し、低・中密度の土地利用が展開される。

※3 ゆとりある低層の戸建住宅を中心に、地域に密着した商業・業務機能等が適度に点在し、低密度の土地利用が展開される。

※4 広域的な商圈を持つ中核的な商業施設を含む多様な商業機能と、県内外の企業の本社・支社機能や国・県をはじめとする主要な行政機能等の多様な業務機能が高密度に集約する。

※5 主に地域住民の生活を支える商業機能と、地域住民・地域産業へのサービスを主体とした業務機能が、低・中密度に並存する。

※6 国内外に向けたエントランス(玄関口)機能を有する空港・港湾や、高速道路・広域幹線道路の広域的な交通ネットワークをいかす。

※7 高速道路及び広域幹線道路への良好なアクセス環境を享受できる地において、高度・先進・先端・固有の技術力等を有する研究開発型産業等、本市産業全体の活性化を先導する。

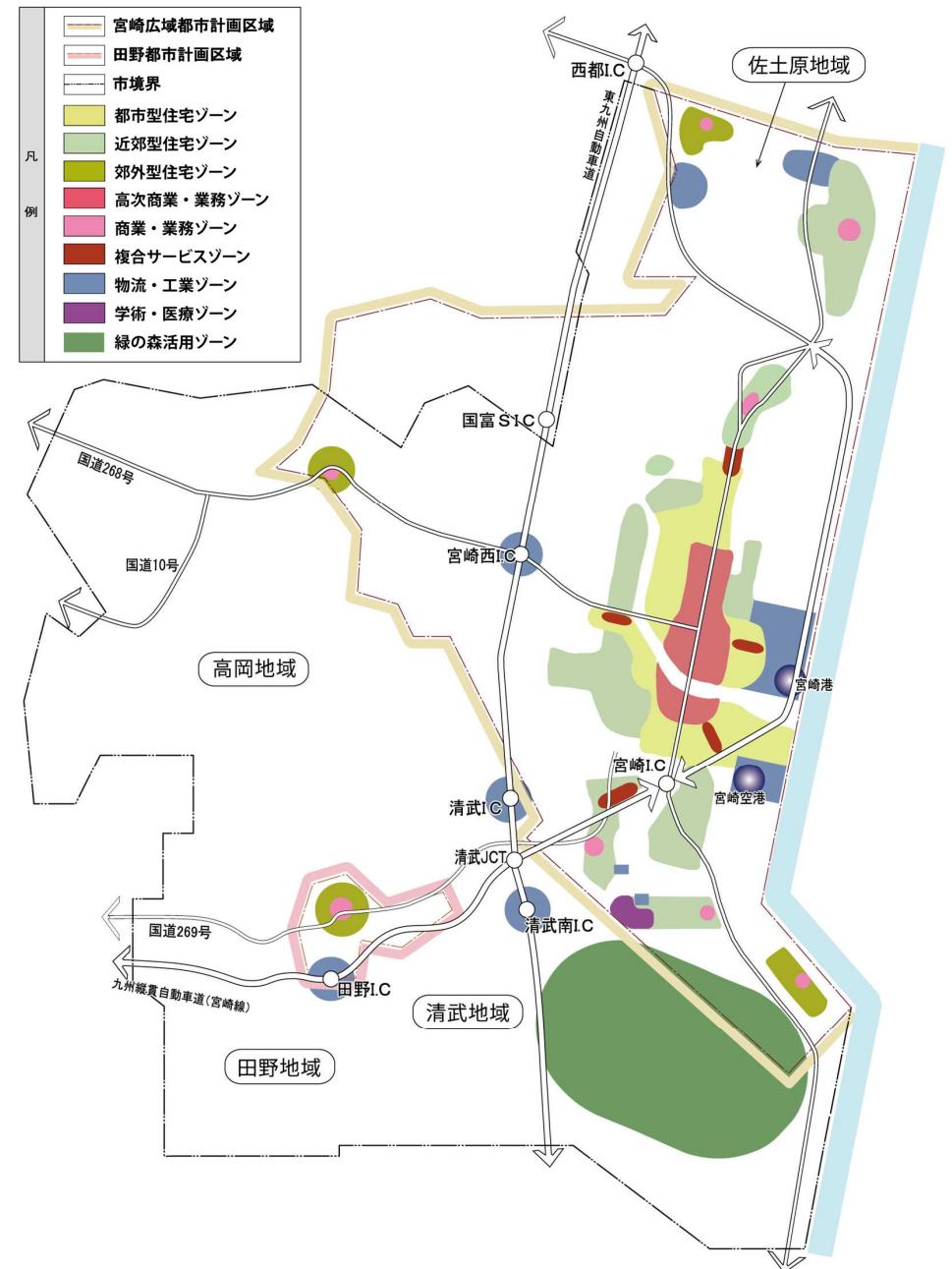
4.1

将来の都市構造

各ゾーンの概ねの配置とイメージ図を示します。

ゾーン名	概ねの配置
都市型住宅ゾーン	◆ 中核拠点及びその周辺の一部地区
近郊型住宅ゾーン	◆ 都市型住宅ゾーン周辺の一部地区 ◆ 佐土原・清武地域の各中心部
郊外型住宅ゾーン	◆ 青島、西佐土原等の各地区 ◆ 田野・高岡地域の各中心部
高次商業・業務ゾーン	◆ 市中心部
商業・業務ゾーン	◆ 商業系用途地域が設定されている各地域拠点
複合サービスゾーン	◆ 旧国道10号沿線地区 (花ヶ島地区・大塚地区等) ◆ 旧国道269号沿線地区 (清武町加納地区等) ◆ 県道中村木崎線沿線地区 (大字恒久・田吉地区等) ◆ 宮崎駅東通線沿線地区 (東部第二地区等)
物流・工業ゾーン	◆ 宮崎港・宮崎空港の各周辺 ◆ 高速道路IC周辺 ◆ その他の企業集積地周辺
学術・医療ゾーン	◆ 宮崎学園都市周辺
保全ゾーン	◆ 都市的土地利用地区以外の地区
公園緑地ゾーン	◆ 主要な公園や緑地
保全系緑地ゾーン	◆ 森林地域 ◆ 中山間地域
生産系緑地ゾーン	◆ 主に優良農地
緑の森活用ゾーン	◆ 鏡洲、加江田周辺の山間部・溪流部

■ゾーンイメージ図



4.2

都市機能別の各地域の役割

都市機能別に各地域の役割と地域間連携のイメージを以下に示します。

4.2.1 居住機能

(1) 居住機能の特性

本市の居住機能の特性を以下のように区分します。

機能区分	特 性
都市型居住機能	県の政治・経済の中心地に位置し、多様な都市機能の利便性を享受できる。商業・業務をはじめとする多様な施設と、低層の戸建住宅から高層の集合住宅までが共存し、中・高密度の土地利用が展開される。
近郊型居住機能	都市型居住地域を取り囲むように又は補完するように位置し、周辺の自然的環境と調和した閑静で良好な居住環境を有するとともに、都市型居住機能との強い結びつきを持つ。部分的に商業・業務機能等も有するが、低層の戸建住宅を中心に中層までの集合住宅が共存し、低・中密度の土地利用が展開される。
郊外型居住機能	豊かな自然的環境に囲まれた地域に位置し、地域の自然、歴史、文化等と身近に接することができる。ゆとりある低層の戸建住宅を中心に、地域に密着した商業・業務機能等が適度に点在し、低密度の土地利用が展開される。

(2) 各地域の役割

居住機能から見た各地域の役割は以下のとおりです。

地域名	役 割	中心的な地域
宮崎地域	都市型居住機能及び近郊型居住機能を担う。	中心市街地及びそれを取り巻くように形成された住宅市街地
佐土原地域 清武地域	近郊型居住機能を担う。	佐土原・清武町の中心部を形成する住宅市街地
田野地域 高岡地域	郊外型居住機能を担う。	田野・高岡町の中心部を形成する住宅市街地

■ 居住機能に関する各地域の役割・地域間連携のイメージ



4.2 4.2.2 商業・業務機能

(1) 商業・業務機能の特性

本市の商業・業務機能の特性を以下のように区分します。

機能区分	特 性
高次商業・業務機能	広域的な商圈を持つ中核的な商業施設を含む多様な商業機能と、県内外の企業の本社・支社機能や国・県をはじめとする主要な行政機能等の多様な業務機能が、高密度に集約する。
地域商業・業務機能	主に地域住民の生活を支える商業機能と、地域住民・地域産業へのサービスを主体とした業務機能が、低・中密度に並存する。

(2) 各地域の役割

商業・業務機能から見た各地域の役割は以下のとおりです。

地域名	役 割
宮崎地域	市中心部において、高次商業・業務機能を担う。
佐土原地域	各総合支所周辺において、地域商業・業務機能を担う。
田野地域	
高岡地域	
清武地域	

■ 商業・業務機能に関する各地域の役割・地域間連携のイメージ



4.2 4.2.3 物流・工業機能

都市機能別の各地域の役割

(1) 物流・工業機能の特性

本市の物流・工業機能の特性を以下のように区分します。

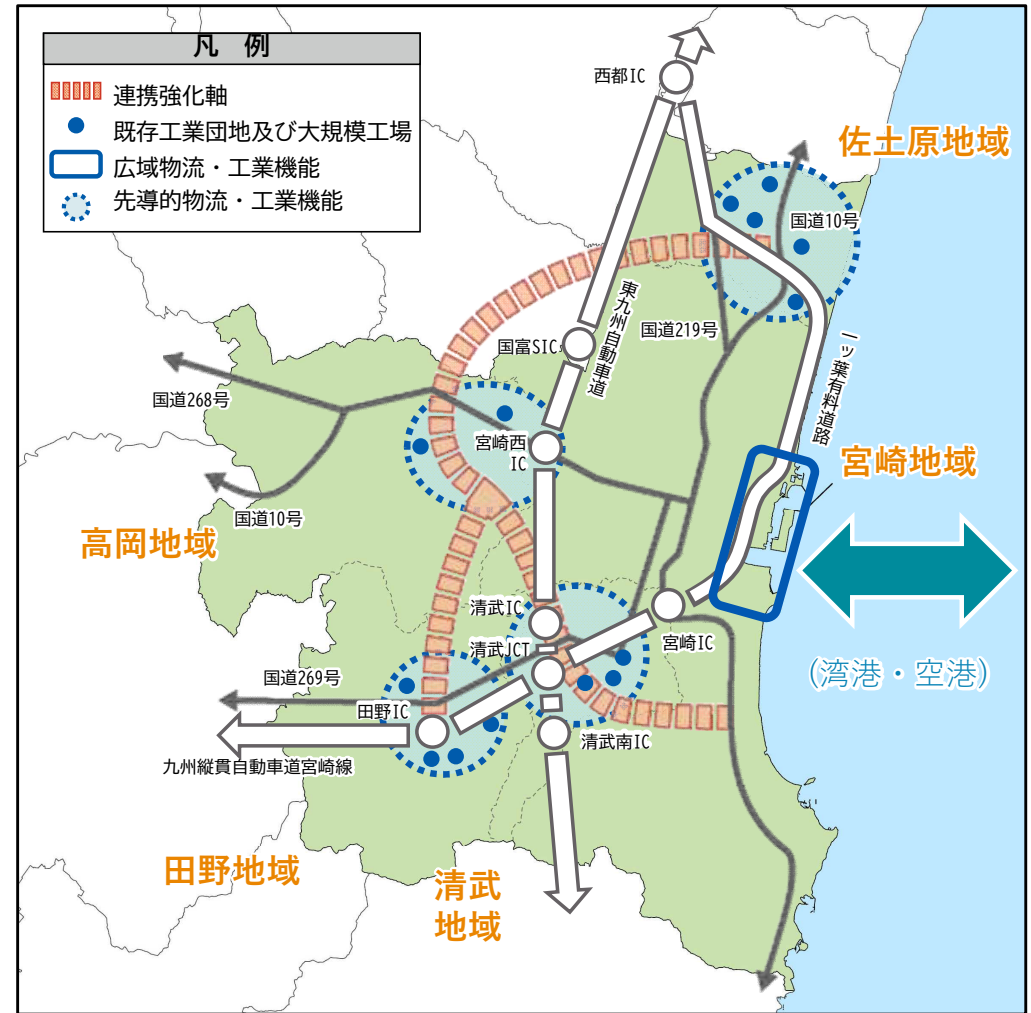
機能区分	特 性
広域物流・工業機能	国内外に向けたエントランス(玄関口)機能を有する空港・港湾や、高速道路・広域幹線道路の広域的な交通ネットワークをいかす。
先導的物流・工業機能	高速道路及び広域幹線道路への良好なアクセス環境を享受できる地において、高度・先進・先端・固有の技術力等を有する研究開発型産業等、本市産業全体の活性化を先導する。

(2) 各地域の役割

物流・工業機能から見た各地域の役割は以下のとおりです。

地域名	役 割
宮崎地域	広域物流・工業機能を担う。
佐土原地域	先導的物流・工業機能を担う。
田野地域	
高岡地域	
清武地域	

■ 物流・工業機能に関する各地域の役割・地域間連携のイメージ



4.2 4.2.4 文化機能

(1) 文化機能の特性

本市の文化機能の特性を以下のように区分します。

機能区分	特 性
中核文化機能	常設的な鑑賞機能や興行機能等を有する中核的・専門的文化・芸術施設等が立地し、広域にわたる様々な文化・芸術活動等を支える県全体の文化の中核となる。
地域文化機能	地域に密着した文化・芸術施設等が立地し、地域の文化・芸術活動等を支えるとともに、地域住民の連携・連帯意識の醸成、他地域の住民との交流等を促進する。

(2) 各地域の役割

文化機能から見た各地域の役割は以下のとおりです。

地域名	役 割
宮崎地域	中核文化機能を担う。
佐土原地域	地域文化機能を担う。
田野地域	
高岡地域	
清武地域	

■ 文化機能に関する各地域の役割・地域間連携のイメージ



4.2 4.2.5 防災機能

(1) 防災機能の特性

本市の防災機能の特性を以下のように区分します。

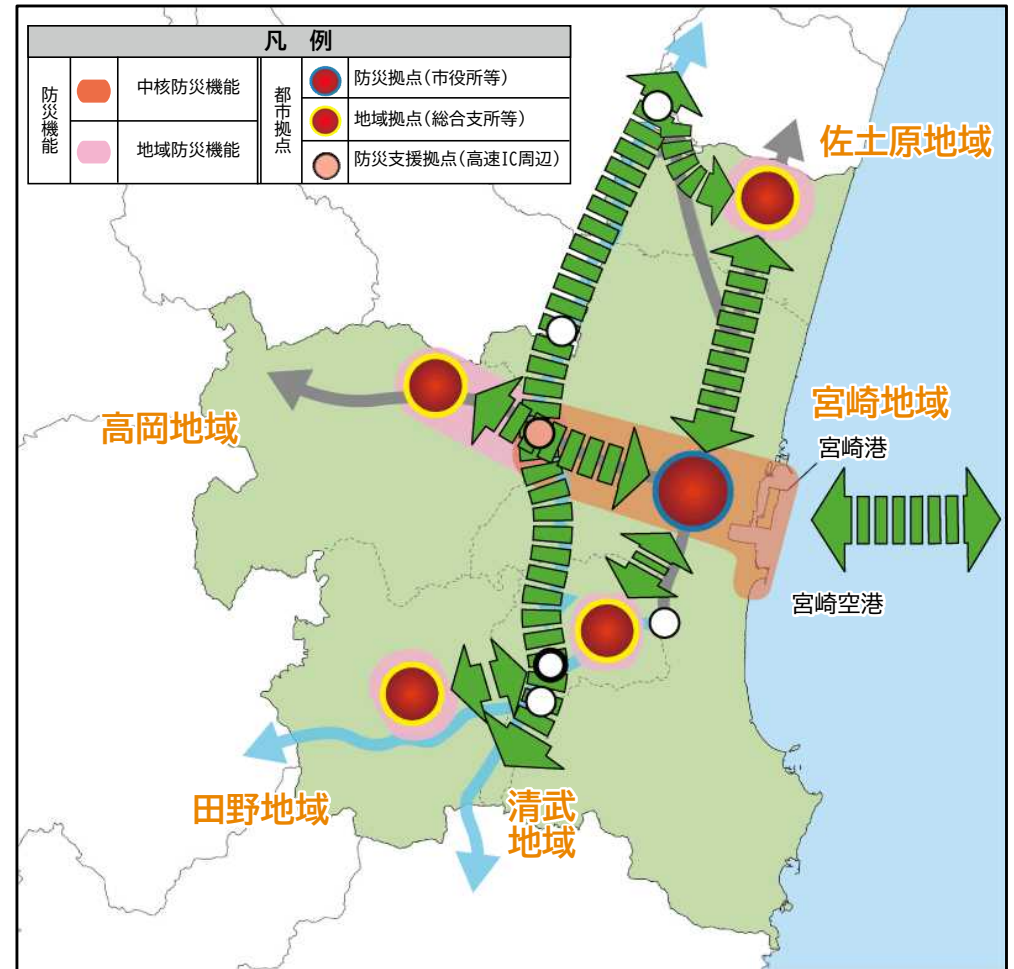
機能区分	特 性
中核防災機能	本市のみならず県下全体の防災に関する指揮・命令、情報の収集・発信、避難並びに宮崎空港・宮崎港や東九州自動車道等の広域物流機能を最大限に活用した救援・救護、復旧・復興等、防災面の中核を担う。
地域防災機能	自然災害に対し、地域住民の人命第一を最優先に、「中核防災機能」と連携し、各総合支所に密着した防災を担う。
防災支援機能	「中核防災機能」及び「地域防災機能」の後方支援を担う。

(2) 各地域の役割

防災機能から見た各地域の役割は以下のとおりです。

地域名	役 割
宮崎地域	市役所や消防署(北・南)等が立地する「防災拠点」は中核防災機能を担う。
佐土原地域	総合支所周辺の「地域拠点」を中心に、地域防災機能を担う。
田野地域	
高岡地域	
清武地域	

■ 防災機能に関する各地域の役割・地域間連携のイメージ



4.2

都市機能別の各地域の役割

前記5つの都市機能別の各地域の役割を踏まえ、各地域の総合的な位置付けを以下のとおりとします。

地域名	位置付け
宮崎地域	多様な高次都市機能が集約した、市の要となる「中核拠点」
佐土原地域	歴史に育まれ、人と自然が調和した、生活・産業・文化の「北の地域拠点」
田野地域	緑豊かな山並みに囲まれた、生活・産業・文化の「南西の地域拠点」
高岡地域	豊かな緑と歴史に育まれた、生活・産業・文化の「西の地域拠点」
清武地域	都市環境と自然的環境が調和した、生活・産業・学術の「南の地域拠点」

■各地域の総合的な位置付け・連携のイメージ

